

「おかげさまで60年まるごとプラレール展」 展示予定「プラレール」の例

<初期のプラレール>

- 「プラスチック汽車・レールセット」(1959年)…プラレールの原型。電動走行はせず、手転がして遊ぶ玩具だった
- 「電動プラ汽車セット」(1961年)…プラレール初の電動走行車両



「プラスチック汽車・レールセット」



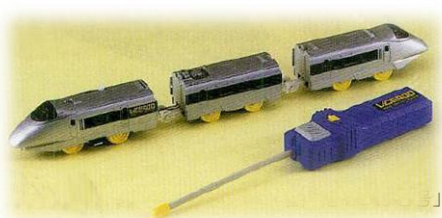
「電動プラ汽車セット」

<平成に登場した進化版プラレール>

- 「ぼくが運転する スーパーひかり号」(1989年)…車両を遠隔操作できるマスコン付きのセット
- 「音声指令つばさ号」(1995年)…“ボイスコントロール”ができる車両
- 「TVで遊ぼう！ぼくはプラレール運転士」(2000年)…テレビで映像を見ながら操作できる、初のカメラ搭載車両
- 「サウンド・スチームD51 498号機」(2006年)…本物のような蒸気の出る車両
- 「テクノロジープラレール」(2011年)…手で転がすと発電され、電池無しでもライトが光る車両
- 「スマホで運転！ダブルカメラドクターイエロー」(2016年)…搭載した2台のカメラがスマホと連動し、操作できる



「ぼくが運転する
スーパーひかり号」



「スマホで運転！
ダブルカメラドクターイエロー」

<ちょっと変わったプラレール>

- 「ひかり号モノレールセット」(1975年)…ひかり号とモノレールが連動して走行するセット
- 「ブリキのプラレール」(2000年)…ブリキ製のプラレール車両
- 「古代エジプト冒険セット」(2001年)…タイムトラベルがテーマのセット。オリジナル車両や情景の他、パズルのレールも付属



「ひかり号モノレールセット」



「古代エジプト冒険セット」

【プラレールとは】

「プラレール」(発売元:株式会社タカトミー)は、2019年に発売60周年を迎えたロングセラーの鉄道玩具で、3世代にわたって愛されているブランドです。

「プラレール」の原型は、金属や木の玩具が主流であった1959年に、当時の最新素材であったプラスチックの玩具として発売された「プラスチック汽車・レールセット」です。

象徴的な青いレールは、当時家族が団らんの時を過ごした「ちゃぶ台」の上で遊べるサイズで設計されました。この規格は60年経った今でも変わっておらず、当時のレールと最新のレールを繋げて遊ぶこともできます。

今後も、身近であり憧れでもある“鉄道”をテーマに、子どもたちが社会を学び、創造力等の子どもたちの成長を促し、また親子のコミュニケーションを育むブランドとして展開していきます。日本国内ではこれまでに、累計約1,480種類、1億6,900万個以上を販売しています(2019年1月末現在)